

Hess スクリーンテスト・複像検査のシミュレーション課題

1 人のヘスと複像検査を普通に行う。

左眼6 基底 315° に装用した赤緑眼鏡で Hess と複像検査を行った場合の偏位なしの人の予想図を下記に書く。(絶対に実際に行わないこと。1マス5°のずれであることは考えなくとも良い)

1 人のヘスと複像検査を左眼6 基底 45° を実際に行い、レポートに添付して提出すること。

自分のコメントの欄には、ヘスと複像検査の違いを記入すること。

複 視 検 査 図

番号 _____

姓 名 _____

年 令 _____

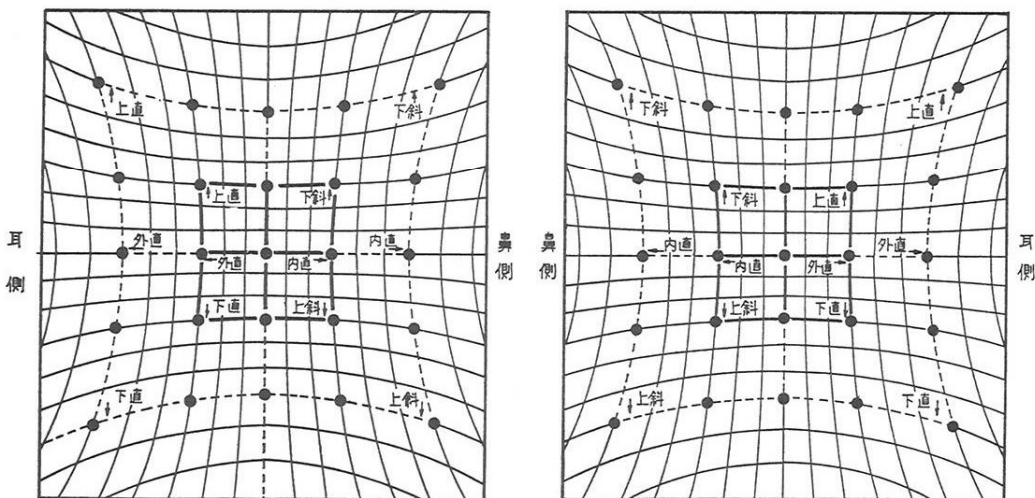
診 断 _____

年 月 日 _____

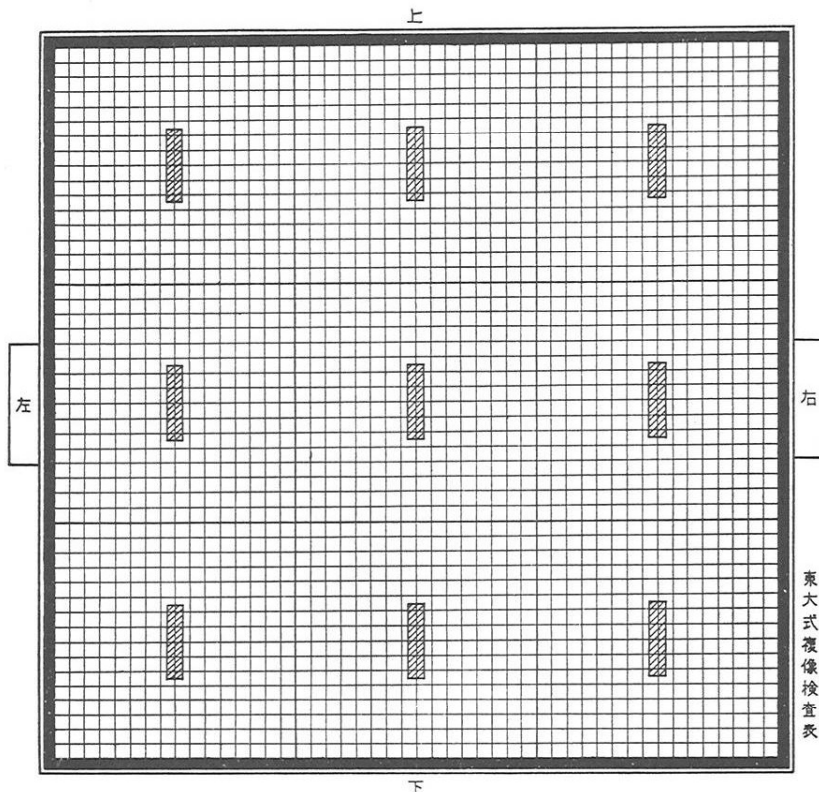
第1面で検査した結果はこの欄に記入する

左 眼

右 眼



第2面で検査した結果はこの欄に記入する

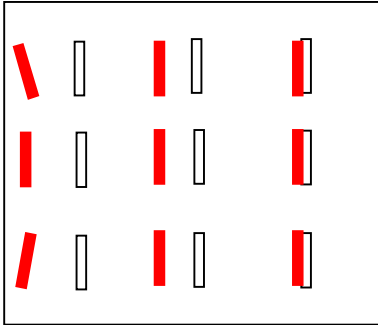


下

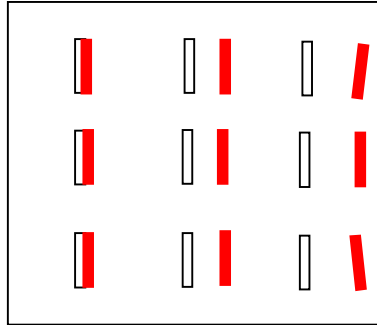
課題

複像検査にて水平筋麻痺の場合、なぜ斜め上下方向にて回旋偏位も出現するのかを内方・外方回旋も考えて説明せよ。

例1



例2



1 人のヘスと複像検査を普通に行う。

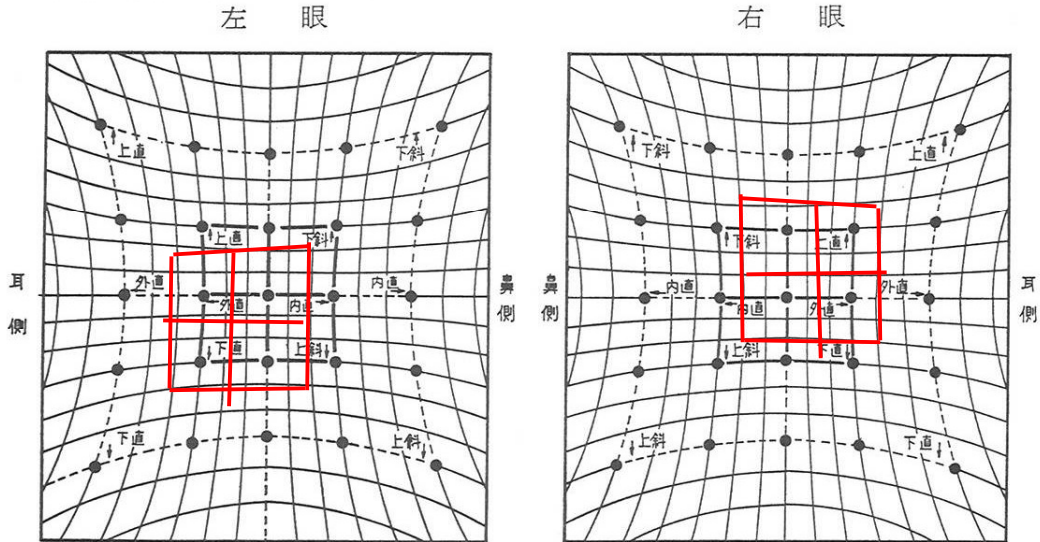
左眼6 基底 315° に装用した赤緑眼鏡で Hess と複像検査を行った場合の偏位なしの人の予想図を下記に書く。(絶対に実際に行わないこと。1マス5°のずれであることは考えなくとも良い)

1 人のヘスと複像検査を左眼6 基底 45° を実際に行い、レポートに添付して提出すること。自分のコメントの欄には、ヘスと複像検査の違いを記入すること。

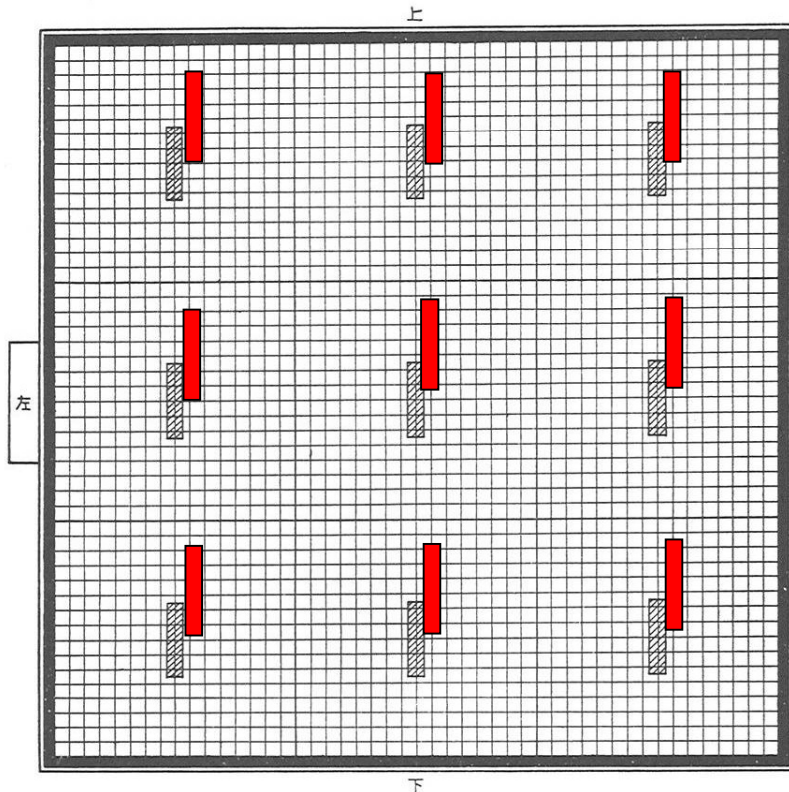
複 視 検 査 図

番号 _____ 姓 名 _____ 年 令 _____
 診 断 _____ 年 _____ 月 _____ 日

第1面で検査した結果はこの欄に記入する



第2面で検査した結果はこの欄に記入する



左眼に赤ガラスの場合

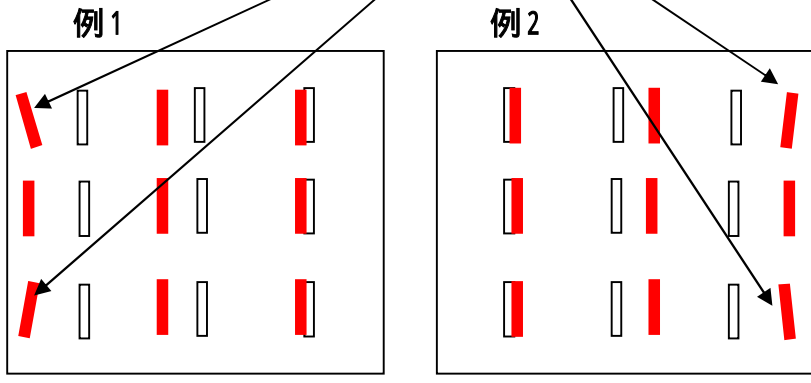


外斜位の人がヘスをする
と内斜位に出ることがある。
両眼分離しているので融像性輻輳は不可能である。多分、近接性輻輳と調節性輻輳が過剰に働いてしまうのでは?と思う。
ヘスは暗室であり赤緑分離なので日常から離れており、近見反応のコントロールができず輻輳するのは?と考える。
APCT の場合でも光源だと調節のコントロールが出来難い場合がある。

東大式複像検査表

課題

複像検査にて水平筋麻痺の場合、なぜ斜め上下方向にて回旋偏位も出現するのかを内方・外方回旋も考えて説明せよ。



右眼に赤ガラスを装用したとすると、例1は右眼内直筋麻痺で、内転しきれず上下方向をみることとなるので、内上転時に指令のゆく下斜筋に指令がゆくと、大げさに言えば第1眼位に近いまま上転したこととなるので外まわしも入ってしまう。

また同様に内下転時に指令のゆく上斜筋に指令がゆくと、内まわしも入ってしまう。

右眼に赤ガラスを装用したとすると、例2は右眼外直筋麻痺で、外転しきれず上下方向をみることとなるので、外上転時に指令のゆく上直筋に指令がゆくと、同様に内まわしも入ってしまう。

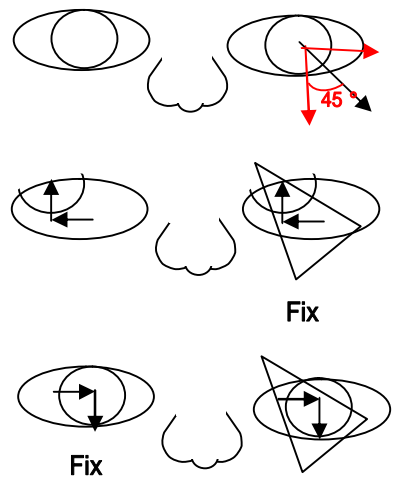
また同様に外下転時に指令の行く下直筋に指令がゆくと、外まわしも入ってしまう。

の解説 右眼偏位の場合

左眼にプリズムを下記のようにおく場合、左眼固視の右眼偏位を検査する場合、基底外方+基底下方となる

碁盤目を中心窩で見る為に左眼が内上転するとHeringで右眼も外上転する(碁盤目は動かないので)

左眼は中心窩で見ているので正面と感じるが、右眼偏位は外上転となる



左眼偏位の場合

右眼で碁盤目を見ようとして右眼は内下転するとHeringで左眼も外下転する

右眼は中心窩で見ているので正面と感じるが、左眼はプリズムを装用しているため網膜像は中心窩より下方と耳側に投影される

そのままの眼位で矢印を中心窩に合わせようとすると、外下方偏位となる(矢印は自由に動くので)

